特　集
観閲式

あづま

令和６年１１月２５日　第１０７８号

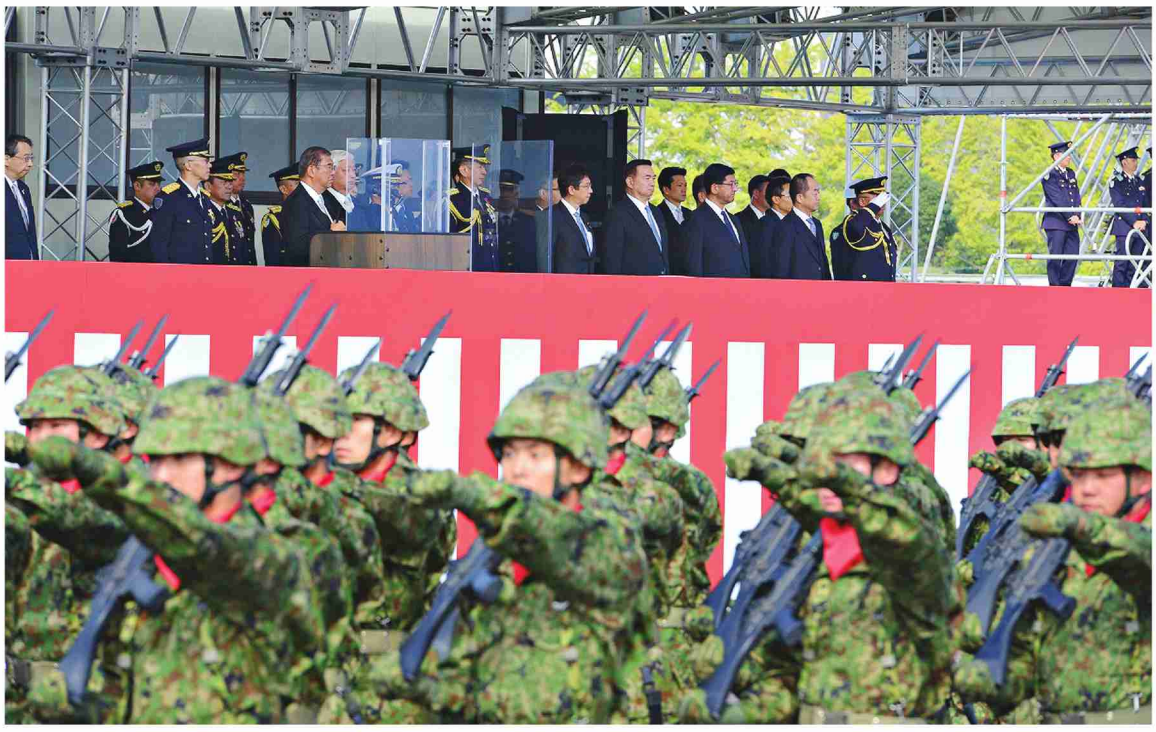
総監統率方針「強靭な東部方面隊の創造」
総監要望事項「万事作戦を基準」

陸上自衛隊東部方面隊広報紙
発行所：方面総監部広報室
住　所：東京都練馬区大泉学園町
専用線：8-37-2446

防衛省・自衛隊70周年記念観閲式

YouTubeライブ配信も

６年振りの観閲行進
自衛隊の威容　部内外に示す


行進部隊を観閲する観閲官（石破内閣総理大臣）

11月9日、朝霞駐屯地及び朝霞訓練場において、防衛省・自衛隊70周年記念観閲式が挙行された。今年は防衛省・自衛隊70周年にあたる年であることから、防衛省・自衛隊全体の行事として、陸海空自衛隊の航空機、車両及び徒歩部隊による観閲行進を実施するとともに、招待者を拡大し、70周年を記念した午餐会等を実施した。

石破茂内閣総理大臣を観閲官として迎え、執行者である陸上総隊司令官の下、実行本部長たる東部方面総監が、満を持して式典に臨んだ。

観閲部隊指揮官第1師団長以下、人員約600人、車両約50両、航空機約10機により、「力強い自衛隊」及び「あらゆる事態への対応能力の保持」を国内外に知らしめ、威風堂々たる観閲行進及び観閲飛行を披露し、その威容を示した。

観閲官は訓示において、これまで防衛省自衛隊が果たしてきた役割、激変する国外情勢、内閣総理大臣、そして自衛隊最高指揮官としての覚悟、自衛官の処遇改善、そしてこれからの防衛省自衛隊に対する期待を込め、「国民にとっての最後の拠り所です。だからこそ、日本国におけるありとあらゆる組織の中で、最も規律厳正であり、最もお互いに対する思いやりがあり、そして最も国民に信頼される組織でなければなりません。」と隊員を激励した。

式典にはさまざまな創意が凝らされ、音楽隊の奏でる拍子・旋律を基軸に、規律厳正・団結強固な整列・行進、合同音楽隊及び第1師団らっぱ隊によるドリルマーチ、令和5年度陸上自衛隊動画コンテスト最優秀作品等の放映、特別儀じよう隊による栄誉礼等、観閲官をはじめ、来場・視聴した方に熱意に満ちた式典を披露することができた。

また本観閲式は自衛隊の任務遂行と観閲式の実施を両立しうる適切な規模と態勢とするため、一般には公開しない代わりに、ライブ映像をリアルタイムで配信し、観閲式を楽しみにしている方への要望に応えた。

観閲部隊指揮官（第１師団長　鳥海陸将）を先頭に整列する参列部隊

巡閲する観閲官

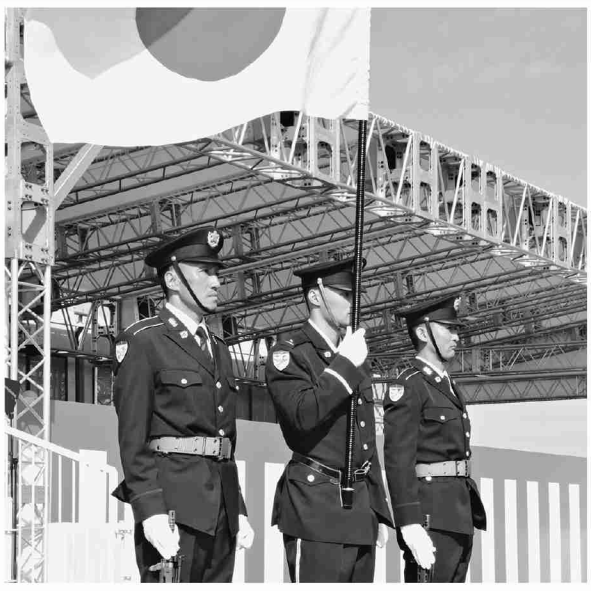
威風堂々の車両行進

凛とした姿で入場した特別儀じよう隊

ライブ映像をリアルタイムで配信
アーカイブ動画も配信中

厳粛な観閲式に華を添える

国歌独唱・音楽隊とらっぱ隊の合同演奏



国旗を奉持する旗手と旗衛隊

第１音楽隊・第12音楽隊及び第１師団らっぱ隊による合同演奏

観閲官に対する栄誉礼の後、国旗を奉持する第30普通科連隊 久井３尉と、第２普通科連隊 高橋２曹及び佐藤２曹が務める旗衛隊が入場すると会場は静寂な雰囲気に包まれた。

国歌を独唱する中央音楽隊 鵜３曹

中央音楽隊 鵜３曹の国歌独唱が会場に響き渡ると、会場はより厳かな空気となり観閲式は厳粛な雰囲気で執り行われた。

観閲行進準備間においては、第１音楽隊長 中福島２尉の指揮の下、第１音楽隊・第12音楽隊及び第１師団らっぱ隊が「行進らっぱ」で会場に入場、雰囲気は一転し、会場に華を添えた。総勢64人による勇壮なドリルマーチと迫力ある演奏は、会場を大いに沸かせた。

さらに合同音楽隊の演奏の下、らっぱ隊による自衛隊創隊10周年記念隊歌「この国は」（作曲 古関 裕而）の合唱が行われ、親しみやすく爽やかな旋律が来場者の心に響き、会場は盛大な拍手に包まれ、高まる熱気と期待を帯び、観閲行進へ移行した。

新たな脅威に対処

防衛装備庁が初公開

近年ドローンの脅威が高まる中、高出力レーザー等を用いたドローン対処器材「車両搭載高出力レーザ実証装置」が披露された。

この対処器材はドローン対処に必要な全ての機能を1両の車両に搭載しており、一般道・高速道路から不整地に至るまで走行でき、優れた機動性を有するとともに、付属レーダーによる360度全方位の捜索・標定・照準・継続的目標追尾能力及び高出力レーザー照射能力を兼ね備えている。

ミサイルなどに比し、低コストで費用対効果の高い装置の披露により、抑止及び対処力の実効性を向上させた。

諸君の先頭に立って、日本を、国民を、守り抜く覚悟

観閲官訓示

本日、この朝霞の地において、内閣総理大臣、そして、自衛隊最高指揮官として、士気旺盛なる隊員諸君の姿に接し、大変心強く思います。

今から七十年前、冷戦の最中、戦争の記憶がまだ色濃く残る昭和二十九年七月、自衛隊は生まれました。

冷戦の時代、自衛隊は、装備や人員の充実など防衛力の整備に努めるとともに、厳しい教育訓練を実施して隊員の練度の維持向上を図ることで、我が国に対する侵略の芽を未然防止に寄与してまいりました。

長い冷戦が終結した後、世界は大きく動きました。国際平和協力活動、テロ対策支援、弾道ミサイルへの対応など、自衛隊に期待される役割は拡大の一途を辿りましたが、諸君は与えられた任務を粛々とこなしてきました。

今や国民の九割は自衛隊に良い印象を持っています。これはこの七十年の間、ただひたすらに任務に当たってきた隊員諸君の地道な努力の賜物に他なりません。全ての隊員諸君に対し、心からの敬意を表します。

今から十七年前、同じくこの朝霞で、私は防衛大臣として観閲式を諸君に対し、心からの敬意を表します。

今から十七年前、同じくこの朝霞で、私は防衛大臣として観閲式に臨んでいました。あれから十七年、我が国を、そして世界を取り巻く安全保障環境は激変しました。

国連安全保障理事会の常任理事国であるロシアがウクライナを侵略し、戦闘は未だ続いています。中東情勢も緊迫し、大勢の人が命を落としています。

我が国周辺においては、本年、中国及びロシアの軍用機が相次いで我が国領空を侵犯しました。これは我が国の主権の重大な侵害であるだけでなく、安全を脅かすものであり、全く受け入れることはできません。

加えて、中国海軍空母が我が国領海に近接する海域を航行しました。

更に、北朝鮮はかつてない高い頻度で弾道ミサイルの発射を繰り返しています。

このように、我が国が戦後最も厳しく複雑な安全保障環境に直面する中、国民の命と暮らしを守り抜くため、外交力と防衛力の両輪をバランスよく強化してまいります。

日米同盟は日本外交・安全保障の基軸であり、インド太平洋地域と国際社会の平和と繁栄の基盤です。この同盟を一層強化させるため、就任早々にバイデン大統領と電話会談を行い、日米同盟を更に力強く発展させていくことを確認しました。トランプ次期大統領とも一昨日に電話会談を行い、日米同盟を新たな高みに引き上げるために協力していくことを確認しました。今後とも、日米同盟の更なる強化に共に取り組んで参りたいと思います。

また、自由で開かれたインド太平洋の実現のため、同盟国・同志国間のネットワークを有機的・重層的に構築し、抑止力を強化するとともに、地域の安定を一層確保するための取組を主導してまいります。

こうした外交力の強化とともに、我が国自身の防衛力を抜本的に強化すべきことは論を俟ちません。

スタンド・オフ防衛能力を始めとする将来の中核となる能力の強化、可動数向上や弾薬・燃料の確保といった継戦能力の確保、統合作戦司令部の創設による統合運用の実効性強化と日米それぞれの指揮・統制枠組みの向上。これら全保障戦略等に基づき、着実に実現してまいります。そして何よりも、防衛力の最大の基盤は、自衛官諸君であり、どんなに立派な装備品を整備しても、それを運用するのは自衛官です。その自衛官の定員が十分に満たされていません。

自衛官諸君が、安んじて、国防という極めて枢要な任務に誇りと名誉をもって専念できるよう万全の体制を構築することが必要です。

このため、生活・勤務環境や処遇の改善ほか、若くして定年退職を迎える自衛官が、現役時代に努力して身に着けた能力を最大限生かしながら、退職後も社会で存分に活躍できる生涯設計を描くことができるよう、私を長とする関係閣僚会議を設置し、議論を重ねていきます。昨日も会議を開催したところであります。今後、令和七年度予算で実施すべき項目は年内に取りまとめ、早急に実現してまいります。

防衛省・自衛隊は、国民にとっての最後の拠り所です。

だからこそ、日本国における組織の中で、最も規律厳正であり、最もお互いに対する思いやりがあり、そして最も国民に信頼される組織でなければなりません。

「事に臨んでは危険を顧みず、身をもって責務の完遂に務め、もって国民の負託にこたえる」。

この服務の宣誓がいかに重いものか、二十二年前に防衛庁長官を命ぜられて以降、私自身もこれまで何度も噛みしめてまいりました。

今日この機会に、私は諸君に改めて問いかけたいと思います。「この服務の宣誓に、自分は今日一日、忠実であっただろうか。」「自分の働きが、我が国の独立と平和、地域と世界の安定に繋がっているという満足感を持てているだろうか。」

自衛隊の活動は、国民の理解と信頼がなければ決して成り立ちません。そのことを改めて徹底するとともに、強い覚悟と責任感を持って自らの任務を遂行してください。

「日本を守る」、「国民を守る」。これは石破内閣の取組の柱です。

私は諸君の先頭に立って、日本を、国民を、守り抜く覚悟です。そして、今この瞬間も、懸命に汗を流して任務に当たる隊員一人一人の努力が、我が国の独立と平和、国民の命と平和な暮らしを守っている。このことを常に胸に刻みつつ、職責を果たしてまいる所存です。

その決意を申し上げるとともに、隊員諸君が各々の任務に全身全霊を尽くされんことを強く要望して、私の訓示といたします。

令和六年十一月九日
内閣総理大臣　石破　茂

観閲式整列部隊 参加隊員の声

普通科部隊

第１普通科連隊で編成。地上戦闘の骨幹部隊として、作戦戦闘に重要な役割を果たす。
「自衛隊の素晴らしさを披露できるよう頑張ります」
第１普通科連隊　１等陸士 清水 音於

空挺部隊

陸上総隊隷下の第１空挺団で編成。陸上自衛隊で唯一の落下傘部隊で、落下傘による各種作戦を任務とする。
「空挺プライドを堅持し、空挺団としての威容を示し、我々の姿が日本防衛の抑止力となれるよう頑張ります」
第１空挺団 特科大隊　陸曹長 安部 光晴

野戦特科部隊

東部方面特科連隊で編成。方面隊全般の火力調整、火力協力を行うなど、火力戦闘を任務とする。
「全国特科部隊の代表の旗手として、観閲式に参列できたことを誇りに思います」
東部方面特科連隊 本部中隊　３等陸曹 大井 祐貴

機甲科部隊

第１戦闘偵察大隊で編成。広範な地域において、警戒・監視能力、機動力、火力をもって師団の行動に必要な情報収集及び各種戦闘を実施する。
「機甲科代表の一員として威容を堅持したい」
第１偵察戦闘大隊 本部管理中隊　３等陸曹 頓所 和輝

航空科部隊

第1飛行隊で編成。第1師団の行動を航空機で支援する任務に当たる。多用途ヘリコプターＵＨ－１Ｊを装備し、空中機動、航空偵察及び航空輸送等の能力を持つ。
「部隊旗手としての責任と誇りを胸に頑張ります」
第１飛行隊 整備班　３等陸曹 青谷 春樹

高射特科部隊

第２高射特科群で編成。地対空ミサイルにより対空戦闘とともに広範囲にわたり迅速かつ組織的な対空情報活動を行う。
「練成した成果を十分に発揮し、２高群の誇りを持って臨んで参りたいと思います」
第２高射特科群 本部管理中隊　３等陸曹 迎 隆正

システム通信科部隊

東部方面システム通信群で編成。東方区内におけるシステム通信組織の構成・維持・運営を任務とする。
「練成の成果を遺憾なく発揮して挑みます」
東部方面システム通信群第105基地システム通信大隊
３等陸曹 村尾 俊祐

施設科部隊

第１施設大隊で編成。第１師団唯一の施設科部隊として、各種施設器材を使用した障害処理・構成や陣地構築などにより、各種戦闘の支援を任務とする。
「仲間と息を合わせて緊張感を持って挑みたい」
第１施設大隊　３等陸曹 藤井 咲良

衛生科部隊

東部方面衛生隊で編成。負傷者の治療や医療施設への後送、衛生資材の補給・整備を行い、作戦を支援する。
「人旗一体、頑張ります」
東部方面衛生隊 本部付隊　２等陸曹 荒川 紘輝

会計科部隊

東部方面会計隊で編成。部隊の物品調達、隊員の給与の支払い等の会計業務を行う。
「観閲式への参列は初めてですが、緊張せず挑みたい」
東部方面会計隊 本部　２等陸曹 上野 真司

訓練支援部隊

東部方面指揮所訓練支援隊で編成。システム及びシミュレーターを活用し、各部隊の訓練支援を任務とする。
「部隊旗手を務めるので、部隊の顔として頑張ります」
東部方面指揮所訓練支援隊　２等陸曹 小林 大洋

後方支援部隊

東部方面後方支援隊及び第１後方支援隊で編成。各部隊に対して補給、整備、輸送などの後方支援活動を任務とする。
「緊張感を持ち威風堂々たる姿で挑みます」
東部方面後方支援隊 第301通信直接支援隊
３等陸曹 菅野 亮介

第１０７８号　あ　づ　ま　令和６年１１月２５日 4

F-15

C-2

SH-60

UH-60

UH-2

F-35

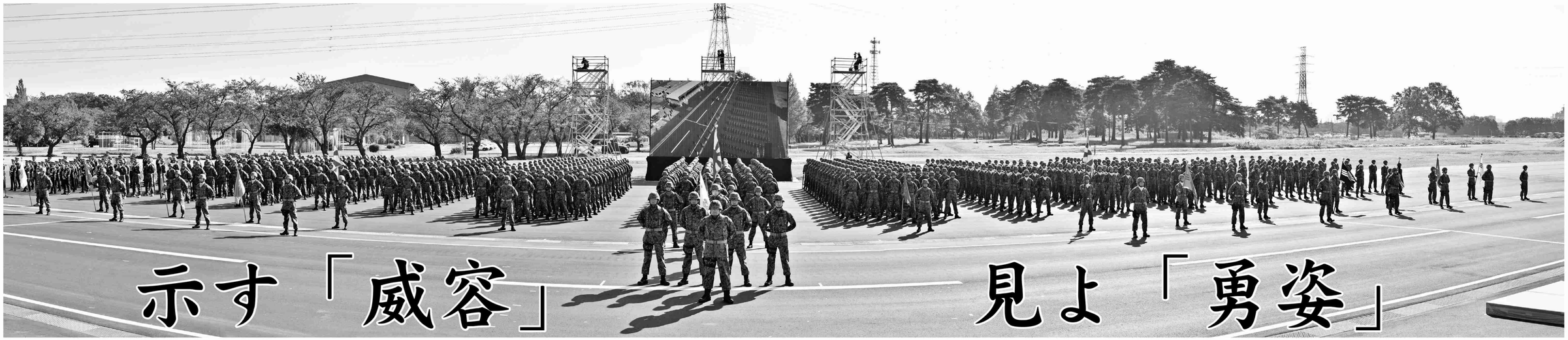
F-2

P-1

LR-2

AH-1

UH-1



武器科部隊

システム通信科部隊

施設科部隊

情報科部隊

警務科部隊

化学科部隊

輸送科部隊

需品科部隊

観閲部隊指揮官
第一師団長　陸将　鳥海　誠司

実行本部長
東部方面総監　陸将　冨樫　勇一

執行者
陸上総隊司令　陸将　山根　寿一

機甲科部隊

高射特科部隊

野戦特科部隊

衛生科部隊

普通科車両部隊

普通科部隊

音楽科部隊

観閲式の安全を双肩に

24時間体制で朝霞訓練場の警備に当たる

第30普通科連隊を基幹とし第12旅団隷下部隊から編成された警備隊は、観閲式の準備及び実施間を通じ、関係機関と綿密に連携して警備情報を収集し、継続的に情報見積りと各種監視・警備装置等を効果的に活用して来場者全員の安全を双肩に警備に当たった。

不測事態対処では各種事態を想定し、迅速かつ確実な処置・対策及び連携が図れるよう練成を重ね、各人が来場者の安全を守る思いを抱き、観閲式に臨み成功に寄与した。

第13普通科連隊の外山3曹は「危険を顧みず、自分の命に代えても要人を守る気概で挑んだ」と熱い思いを話した。

第1師団司令部は観閲式参列部隊及び行進部隊に対する指導を担任した。10月23日に編成を完結し、観閲式本番を迎えるまでの間、雨の日も時季外れの暑さにも負けず参列部隊の指導に当たった。

準備訓練では各部隊の上級陸曹が核心となり、若年隊員のモチベーションを維持しつつ、飽くなき統制美を追求するため熱く情愛に満ちる指導を行った。観閲式では一糸乱れぬ統制された自衛隊の厳正な規律と強固な団結が成す「威容」を誇示した。

無事に観閲式を終え戻ってきた参列部隊を褒める上級陸曹の目は、我が子を愛でるかのような強くたくましく優しい眼差しであった。

飽くなき統制美の追求

観閲部隊を輝かせる隊員たち

報道陣をベスポジに誘導

本観閲式では報道機関等約40社が取材した。報道対応班は安全かつ迅速に式次第に併せ撮影場所に報道各社を誘導し、観閲式の整斉円滑な進行に寄与した。

4施群の白石1曹は「自衛隊がより良く映る場所へ誘導するため、何度も配置位置を検討して本番に臨んだ。本番では多くの報道陣が無事に撮影でき、ニュース報道を見た時はうれしかった」と笑顔で話した。

職人技で会場を輝かせる

第1施設団を主力とした施設隊は、各部隊に先立ち10月初旬から観閲台、観閲席、来賓席等の構築及び紅白幕、各席への椅子の設置、会場全域の除草、駐車場・簡易トイレ設置場所の整地等、現場のニーズに最大限に応え、観閲式の基盤を確実にした。

1施大の鈴木士長は「整列部隊が一糸乱れず整列するように、私たちもミリ単位までこだわって整地したり、椅子を配置した」と話し、観閲式の裏側でも統制された美、規律厳正な部隊の面影を垣間見た。

観閲式基盤を支える

東部方面後方支援隊を基幹とした全般補給支援隊は本観閲式の参加部隊をはじめ実行本部の人員約1500人への糧食交付、朝霞訓練場に設置された実行本部の各施設への給油等を少数精鋭20人で行った。

特に燃料交付支援組は、人員4人車両1両の編成で巡回給油した。総監部付隊の今倉1曹は「観閲式に係わる全ての人が当たり前に当たり前のことができるようにするのが私たちの仕事」と謙虚ながらも自身の任務への誇りをにじませた。

臨場感溢れるドローン映像配信

本観閲式は防衛省及び陸上自衛隊の2個アカウントからYouTubeリアルタイム配信を行い約1万5000人が視聴した。配信中のコメント欄には「まるでその場にいるような迫力ある映像だ」など大きな反響があった。

配信された映像は、4Kのカメラ4台でプロカメラマンが撮影するものと、遠隔操作で広い範囲の撮影が可能なPTZカメラによるもの、さらにドローンによる迫力ある空撮映像を式の進行に併せてダイナミックに切り替える、臨場感の溢れるものであった。

映像配信を担当した方面広報室の加藤1尉は「最後まで飽きずに視聴してもらうため映像の質のみでなく、テンポよく映像を切り替え臨場感ある映像配信を心掛けた」と音楽科職種ならではの「こだわり」を話してくれた。

招待者のおもてなし

裏方ながらも、観閲官をはじめ来賓等をもてなす接遇班は花形の存在である。各人は接遇の基本である挨拶・身だしなみ・表情・言葉遣いなどを練成で磨き笑顔溢れるおもてなしをした。

13普連の岡本1士は「本支援では学ぶ機会が少ないビジネスマナーなどを習得することができ、勉強になった」と前向きに話してくれた。

支える力・繋ぐ成功への想い

統制美を支える視号通信

観閲部隊の動作が一糸乱れず揃うのは、第2高射特科群の隊員8人で編成された視号通信手の存在があったからこそである。寸分の狂いもなく一斉に旗を操作し、参列部隊の行動を統制した。視覚のみならず機敏な動作が繰り出すその旗の音が、観閲部隊の意思と行動を一体化した。

また各部隊の行進間隔を確実に維持することで、観閲行進全体の雄姿を整えた。行進部隊の発進を統制することも視号通信の重要な役割であった。

東方特科連隊の富樫3曹は「部隊の威容を示すためにも重要な役割、私自身も一緒に行進する一員だという思いをもって、各部隊の隊員が分かりやすいように旗の上げ下げを行った」と恥ずかしながらも話してくれた。

部隊の威容を示す観閲行進を支える

大空を舞台にする航空統制

東部方面航空隊を基幹として陸・海・空3自衛隊で編成された航空統制は、観閲飛行に参加する航空機の安全運航を管理し、大空を舞台にしたダイナミックな観閲飛行の統制を行った。

航空統制は飛行統制とともに、継続的な気象情報の収集と適切な飛行判断を実施して航空事故を未然に防止し、観閲飛行の成功に寄与した。

観閲部隊を輝かせるアナウンス

アナウンスは観閲式進行の指標となる。平素から発声練習・部隊の行事等での司会進行を行う5人の隊員で編成された司会進行組は、観閲式の円滑な進行に大きく貢献した。総監部付隊の葛西3曹は「観閲部隊をより輝かせるアナウンスを心掛けた」と華やかな声で話してくれた。

来場者の安全を第一に

受付・案内班は来場者及び報道関係者の整斉かつ安全な入退場のため、りっくんランド・研修棟等に受付を開設し、来場者及び報道関係者への親切丁寧な受付・案内を実施した。

来場者及び報道関係者の整斉かつ安全な入退場のため、予行を繰り返し行い、万全な体制を整え観閲式の整斉円滑な進行に寄与した。

12後支の酒井3曹は「観閲式を気持ちよく観覧してもらえるよう手荷物検査など誠心誠意、笑顔で対応した」と話した。

備えは万全に衛生救護態勢

東部方面衛生隊を基幹として編成された衛生救護課は、隊員及び来場者の緊急事態に備えて傷病者発生から患者後送等のさまざまな訓練を重ね、万全な衛生態勢で観閲式を支えた。

方面衛生隊の大島士長は「何もないことが一番と祈りつつ訓練をしました。出番なく無事に観閲式を終えられて良かったです」と安堵こぼれる笑顔で語ってくれた。

整備を万全に不測事態に備える

第1後方支援連隊を基幹として東部方面後方支援隊及び第12後方支援隊で編成された補給整備・回収隊は、朝霞訓練場に整備所を開設し、訓練時に発生した故障に昼夜を問わず対応した。それに並行し、迅速に故障車両を回収できるように訓練を繰り返し、万全の態勢を確立して、全車完走を達成し、観閲式の整斉円滑な実施に寄与した。

方面後支隊の市川士長は「本番で活躍できなかったのが私たちの一番の活躍の成果です」と達成感に満ちた笑顔で話してくれた。

レンズの先にある思いを繋ぐ

広報班及び東シ通群写真班は観閲式に関わる全ての人の思いと表情をレンズ越しに記録し、次に繋げる任務を背負った。各人はその任務を胸に一丸となってシャッターを無心に、貪欲に切った。

2普連の菊池士長は「レンズを通して、観閲式を支える隊員の雄姿を記録し任務完遂に寄与したことをとても誇らしく思う」と話した。

最先任上級曹長

「感謝の心」

第1普通科連隊 猪本 準 准陸尉

第1普通科連隊第七代最先任上級曹長の猪本准尉です。令和4年8月1日から、最先任上級曹長として勤務しています。出身は秋田県で、今年50歳を迎えました。私の座右の銘は「感謝の心」です。感謝の心は、我々を大きく美しく強くする。また感謝して生きることで感動が沸き上がり、みずみずしい魂で生きることができるからです。素直に「ありがとう」と言える心の在り方であるように心掛けています。

私の所属する第1普通科連隊は、東京都練馬区にある練馬駐屯地に所在しています。東京都内唯一の普通科連隊であり、今年度創隊73周年を迎える歴史と伝統ある部隊です。

任務は東京23区の首都防衛任務、災害派遣そして国家的行事の支援を任務としている部隊です。篠部連隊長を核心として、日々の訓練に邁進し、隊員それぞれが、「一」に目的を持って取り組んでいます。

部隊は現在11月9日に実施される令和6年度自衛隊記念日観閲式に向けて訓練を開始しています。この観閲式の目的は、自衛隊の最高指揮官である内閣総理大臣（観閲官）の観閲を受けることにより、隊員の使命の自覚及び士気の高揚を図るとともに、防衛力の主力を展示し、自衛隊に対する国民の理解と信頼を深めることであります。この任務を完遂するために我々は、あくなき執念をもって実力を養うとともに、厳しい訓練により、隊員一人一人が一致団結して、心を一つにすることで生まれる組織としての威容を作り上げていきます。

最後に、この特別な観閲式に参加できる隊員は、いかに恵まれた機会であるかを噛みしめて「感謝の心」を持って参加してもらうことで、この経験が今後の大きな財産となることと思います。また「あづま」への投稿の機会を与えて貰ったことに感謝致します。

観閲式 東方男児 特集

『勝ち取った大臣旗手』

第30普通科連隊
山下（やました） 瞬（しゅん） 3等陸曹

自衛隊の最高指揮監督権を有し、観閲官である内閣総理大臣旗手を務めたのは、第30普通科連隊重迫撃砲中隊所属の山下瞬3曹。埼玉県川島町出身の彼は、普段は120mm迫撃砲の砲手として、また若手隊員をまとめる営内班長として中隊で活躍している。今回錦を飾るべく、観閲式の大臣旗手を熱望。選考を勝ち抜き、名誉な任務を得た。

「総理大臣旗手として恥じぬよう、任務を全うします」と意気込み観閲式に臨んだ。

『響け！ドラムの鼓動』

第1音楽隊
柴田（しばた） 久徳（ひさのり） 3等陸曹

第1音楽隊でパーカッション奏者として勤務している柴田 久徳3曹は千葉県出身。高校生の時に東日本大震災で慰問演奏をしていた自衛隊音楽隊の姿を見て、自衛隊の入隊を決めたという。

観閲式では観閲行進準備時に行われた音楽演奏でバス・ドラムを担当した。「自衛隊の雄姿を音楽でも示せるよう、力強くバス・ドラムを叩きました。多くの人の心に響いて勇気を持ってもらえたら幸せです」と話した。

『モットーは挑戦』

第5施設群
吉村（よしむら） 勇人（ゆうと） 陸士長

観閲式式場整備隊で活躍した吉村 勇人士長は、新潟県妙高市出身。高田駐屯地に駐屯する第5施設群第394施設中隊の交通小隊に所属し、測量、施設器材を用いた交通作業、工事を行っている。

観閲式では観閲台などの建築において測量を担当した。「初めての観閲式で測量士として任務に携われることを光栄に思います。この経験を今後の任務に生かしていきたい」と次期任務を見据えた決意を見せた。

観閲式 フェスティバル 特集

『衛生面でサポート』

東部方面衛生隊
西部（にしべ） 瑳（さくら） 1等陸士

方面衛生隊第302救急車隊で勤務している西部 瑳1士は、千葉県佐倉市出身。普段は方面直轄部隊等に対する衛生救護支援及び衛生教育支援の補助の業務を行っている。観閲式では救護班で衛生救護支援を担当した。本任務に当たり西部1士は物心両面の準備を行うとともに、各種救護要領の知識・技能の研鑽に励んだ。「観閲式参加全隊員が安心して無事に観閲式を終えられるよう衛生面でサポートします」と意気込んだ。

『らっぱの音色で感動を』

第1後方支援連隊
小澤（おざわ） 七海（ななみ） 陸士長

第1後方支援連隊第2整備大隊第1普通科直接支援中隊で通信整備手として通信機材の整備を日々行っている小澤 七海士長は千葉県松戸市出身。観閲式では特別儀じよう隊として総理大臣の送り儀じようを行った。小澤士長は「らっぱの吹奏でその場にいる方々に感動を届けたいと思います」と意気込んだ。また「大変貴重な経験をさせていただくことができました。今後もらっぱ手として活躍していきたい」と今後の豊富を語った。

『笑顔で対応』

関東補給処
堀ノ内（ほりのうち） 瑶与（たまよ） 陸士長

関東補給処誘導武器部堀ノ内 瑶与士長は鹿児島県出身。部隊では補給品の出納業務を行っており、補給品を払い出す際には輸送中に補給品に傷が付かないよう丁寧な梱包を心掛けるとともに、業務を円滑に行えるよう、倉庫内の整理整頓を日々行っている。

観閲式では報道対応班で報道関係者の行動統制を担当、式典時には観閲台付近で報道関係者を統制した。「着意したことは笑顔を絶やさないこと」と話してくれた。